「にげるのがとくいなキツネは」

もしもわたしが縄をかけられていたとしても、どうか心配しないでほしい。
こんな風にぐるぐる巻きにされていようとも、だ。
なぜならわたしは、にげるのがとくいなキツネだからだ。

もしもわたしが鎖でつながれていたとしても、どうか心配しないでほしい。
それが孤島の牢獄の中であっても、だ。
なぜならわたしは、にげるのがとくいなキツネだからだ。

もしもわたしが穴に落ちていたとしても、どうか心配しないでほしい。
それがどんなに深く暗い穴であったとしても、だ。
なぜならわたしは、にげるのがとくいなキツネだからだ。

もしも夕暮れの草原で、岩壁の上で、朽ちかけた公園のベンチで、ひとりでいるキツネを
見つけたら、どうか話しかけてみてほしい。
なぜならそれはおそらく、にげるのがとくいすぎたわたしだからだ。

そしてそのときわたしが逃げなかったとしても、どうか驚かないでほしい。
なぜならわたしは、つかまるのもとくいなキツネだからだ。

伊津野果地　Nov. 2022